

No.	020	—	2001	事務事業名	救急法普及に関する事務	細事務事業名	救急法の普及・啓発事業	公的関与	2				
PLAN	課名	警防課	係名	救急救助係	電話番号	089-964-5217	メールアドレス	keiboka@city.toon.ehime.jp					
	事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 期間設定なし				
	総合計画	政策目標	第2章 安全で快適な社会基盤のまち		政策項目	5 消防体制と防災・減災対策の充実		主要施策	(3) 防火・防災意識の高揚と自主防災組織等の育成				
	事業の対象	東温市内居住者及び勤務者				根拠法令							
	事業の目的	最終的	救急車が到着するまでの応急手当の知識、技術を習得し救命率の向上に繋がります。			今年度	一人でも多くの市民及び東温市に勤務する方に、救命法の必要性について理解を深めます。						
	活動内容	①	応急手当指導員、普及員の指導法の向上に努めます。			④							
		②	救急法を多くの方に受講してもらえようSNS等を使用し広報を行います。			⑤							
		③	小中学校の教職員を対象に応急手当普及員を増やしていきます。										
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	最終目標			
		応急普及員講習	回数と参加者		回・人	目標	1回 15人	1回 15人	1回 15人				
			実績	1回 15人	2回 8人								
上級救命講習		回数と参加者		回・人	目標	1回 20人	1回 20人	1回 20人					
				実績	1回 39人	2回 68人							
一般救命講習		回数と参加者		回・人	目標	50回 800人	50回 800人	50回 800人					
			実績	68回 2,679人	66回 2,021人								
ODO	予算費目	会計	一般会計		費目名	消防		費					
	直接事業費	平成 30 年度決算		令和 元 年度決算		令和 2 年度予算		備考					
		国・県支出金	0 千円		0 千円		0 千円						
		地方債	0 千円		0 千円		0 千円						
		その他特定財源	0 千円		0 千円		0 千円						
		一般財源	170 千円		180 千円		170 千円						
	計(A)	170 千円		180 千円		170 千円							
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.160 人	981 千円	0.070 人	437 千円	0.070 人	437 千円					
		臨時職員工数・経費	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円					
	全体事業費(A+B)	1,151 千円		617 千円		607 千円							
一次評価者	救急救助係	総合評価点	A	必要性	3	有効性	4	達成度	2	効率性	4	今後の方向性	拡大・充実
項目	評価項目の説明 (一次評価者のコメント)												
必要性	継続して救命講習を開き市民の方、市内に勤務する方に救命処置、応急手当を身に付けていただき、救命率の向上を目指す必要があります。												
有効性	救命講習、AEDに対する関心も高まってきていて救命率の向上にもつながっていくと思われます。												
達成度	救命講習の回数にはあまり変化はありませんが1回の受講人数は減ってきています。												
効率性	小中学校の教職員に対して普及員の育成を計画して行い、教育機関での救命率の向上に努めます。												
当面の課題	救命講習の新規講習があまり増えていないため東温市ホームページ等を使用して広報を行っていく必要があります。												
改訂計画	一般救命講習だけでなく、上級、普通救命講習の受講者が増えるように広報していきます。												
二次評価者	警防課長	総合評価点	A	必要性	3	有効性	4	達成度	2	効率性	4	今後の方向性	拡大・充実
二次評価での指摘事項	救急法の必要性を理解していただき、上級、普通救命講習の受講者が増えるよう積極的に普及啓発する必要があります。												

No.	020	—	2004	事務事業名	愛媛大学・東温市医師会との連携事務及び業務		細事務事業名	医療機関との連携事業		公的関与	2		
PLAN	課名	警防課		係名	救急救助係		電話番号	089-964-5217		メールアドレス	keiboka@city.toon.ehime.jp		
	事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営		実施計画	非該当		事業期間	年度 ~ 期間設定なし		
	総合計画	政策目標	第2章 安全で快適な社会基盤のまち		政策項目	5 消防体制と防災・減災対策の充実		主要施策	(2) 消防・救急体制の充実				
	事業の対象	愛媛大学医学部付属病院・東温市医師会・東温市消防署					根拠法令						
	事業の目的	最終的	愛媛大学医学部付属病院、東温市医師会と連携し医療体制の構築を行います。				今年度	愛媛大学医学部付属病院、東温市医師会と連携し救急隊員の知識、技術の向上に努めます。					
	活動内容	①	東温市脳卒中患者救急搬送連絡協議会の事務、症例検討会を開催し救急隊員の知識の向上に努めます。				④	医師及び学生の救急医療に関する研究への協力を行います。					
		②	中予地域の消防本部と合同の勉強会を計画し開催します。				⑤						
		③	東温市、東温市医師会の開催するイベントに参加し東温市医師会との連携強化を図ります。										
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由			単位	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	最終目標		
		東温市脳卒中患者搬送連絡協議会		年2回			回	目標 3	3	3			
						実績 会議・検討会・視察研修	会議・検討会・勉強会						
東温市医師会主催の東温市健康フォーラム参加		年1回			回	目標 1	1	1					
						実績 1	1						
DO	予算費目	会計	一般会計			費目名	消防 費						
	直接事業費		平成 30 年度決算	令和 元 年度決算	令和 2 年度予算	備考							
		国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円								
		地方債	0 千円	0 千円	0 千円								
		その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円								
		一般財源	100 千円	100 千円	100 千円								
	計(A)	100 千円	100 千円	100 千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.104 人	638 千円	0.104 人	649 千円	0.104 人	650 千円					
		臨時職員工数・経費	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円					
	全体事業費(A+B)		738 千円	749 千円	750 千円								
一次評価者	救急救助係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	拡大・充実
項目	評価項目の説明 (一次評価者のコメント)												
必要性	愛媛大学付属病院と東温市医師会との連携の継続は東温市の医療体制を充実させるため必要です。												
有効性	連携を強化することにより東温市の救急医療体制の強化・充実に繋がります。												
達成度	症例検討会、勉強会を行うことにより救急隊員の知識の向上になり医療機関との連携強化につながっています。												
効率性	医療機関との連携強化により重症度の高い傷病者を近隣の医療機関で早期に治療が受けられ、効率的に運用されています。												
当面の課題	救急隊員と医療機関との連携を強化するため、東温市医師会との関係を深めていく必要があります。												
改訂計画	救急隊員の知識・技術の向上のため医療機関と連携し、救急活動の事後検証、症例検討会を計画し実施していきます。												
二次評価者	警防課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	拡大・充実
二次評価での指摘事項	東温市の救急医療体制の充実のため、引き続き医療機関との連携を維持していく必要があります。												

No.	020	—	2062	事務事業名	愛媛大学付属病院ワークステーション	細事務事業名	救急隊員の研修・実習事業	公的関与	2				
PLAN	課名	警防課	係名	救急救助係	電話番号	089-964-5217	メールアドレス	keiboka@city.toon.ehime.jp					
	事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	平成 29 年度 ~ 期間設定なし				
	総合計画	政策目標	第2章 安全で快適な社会基盤のまち		政策項目	5 消防体制と防災・減災対策の充実		主要施策	(2) 消防・救急体制の充実				
	事業の対象	消防職員（救急隊員）				根拠法令							
	事業の目的	最終的	愛媛大学付属病院に救急隊を派遣し知識、技術の向上を行うと共に重症事案に対しては医師同乗でドクター救急車の運用を行います。			今年度	救急隊、派遣時における救急救命士の再教育、救急隊員の教育項目を継続して協議しカリキュラムを作成します。						
	活動内容	①	愛媛大学付属病院に週3日、救急隊を派遣し医師、看護師の指導を受け知識、技術の向上に努めます。			④	救急搬送後、その他病態についての症例検討会を行い、今後の救急活動に繋げていきます。						
		②	愛媛大学付属病院がドクターヘリ当番日には医師と連携して救急活動を行います。			⑤							
		③	救急隊派遣時はドクター救急車の運用をし救命率の向上に努めます。										
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	最終目標			
				事務の性質上、指標設定になじまない。		目標							
				実績									
				目標									
				実績									
				目標									
ODO	予算費目	会計	一般会計		費目名	消防		費					
	直接事業費		平成 30 年度決算	令和 元 年度決算	令和 2 年度予算	備考							
		国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円								
		地方債	0 千円	0 千円	0 千円								
		その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円								
		一般財源	0 千円	0 千円	0 千円								
	計(A)	0 千円	0 千円	0 千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.044 人	270 千円	0.044 人	275 千円	0.044 人	275 千円					
臨時職員工数・経費		0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円						
全体事業費(A+B)		270 千円	275 千円	275 千円									
一次評価者	救急救助係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	3	今後の方向性	拡大・充実
項目	評価項目の説明（一次評価者のコメント）												
必要性	医療機関との連携は、救急救命士及び救急隊員の知識、技術の向上を図るため必要と考えます。												
有効性	病院内研修により重症事案にドクター救急車の運用が実施でき、早期の治療に繋がり救命率の向上が図られます。												
達成度	搬送後の医療補助や検討会を行うことで、医師の指導を受けられ、その後の救急活動に繋げています。												
効率性	医師、医療機関との連携が取れスムーズな受入ができようになり救命率の向上に繋がります。												
当面の課題	救急救命士、救急隊の効率的な実習を行うためにカリキュラムを作成する必要があります。												
改訂計画	救急救命士、救急隊員の教育カリキュラムを医師と協議を重ねて作成していく必要があります。												
二次評価者	警防課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	3	今後の方向性	拡大・充実
二次評価での指摘事項	救急救命士及び救急隊員の知識、技術向上のため、より効果的な派遣型ワークステーションとなるよう教育カリキュラムを作成する必要があります。												